

鉄鋼スラグの対応について

今後、注意して見ていきたい



辻 紀樹 議員

辻 平成26年4月、富

野地区の町有地に新幹線
関連工場が建設され、土
木資材として鉄鋼スラグ
が大量に使用されたと聞
いている。鉄鋼スラグに
は不純物が含まれ、近年
土壌汚染が問題となっ
ている。

現在、工場建設に使用
された鉄鋼スラグによる
土壌汚染はないが、将来
土壌汚染が発生する可
能性も、また、発生し
ない可能性もある。

国は環境面での優位性
などから、グリーン購入
法により循環資源として
多く利用し、また北海
道は「北海道リサイクル
製品認定制度」を平成
16年12月創設し、利
用を勧めている。

以上の事を踏まえ、次
の2点について質問す
る。
1、使用された鉄鋼ス
ラグの量は。

2、工場撤退後の鉄
鋼スラグの取り扱い

町長 1点目、使用し

た鉄鋼スラグの量は、株
式会社鉄建からのデー
タによると1万2006ト
ンである。

2点目、工場が撤退し
た場合の鉄鋼スラグ路盤
材等の取り扱い、町有
財産賃貸借契約書の中
で「契約期間満了のとき
は現状に復して返還す
る」との規定があるが、
その後の土地の使用状
況を勘案しながら、当
該業者とそれらの対応
を協議する。

辻 「現状に復して返

還する」という文言が
ある。私も鉄鋼スラグ
について色々調べたが、
最近の物は不純物が
かなり除去され、製品
としてより良くなっ
ていることは間違
いない。ただ、リサイ
クル製品なので、使
用中止になった場合
は、当然、安定型な
り管理型の施設に
産業廃棄物として
排出されるのか。当
然、設置業者がやる
だろうと、

所管事務調査

(委員会が受け持っている調査内容)

第1回定例会（3月）までの各常任委員会、
議会運営委員会の所管事務等調査事項を次の
とおり決めました。

《総務常任委員会》

- ・ガス事業
- ・給食センターの運営状況
- ・いじめ防止対策

《産業建設常任委員会》

- ・農業振興
- ・商工観光振興
- ・除雪事業

《議会運営委員会》

- ・議会運営に関する事項及び議長
の諮問に関する事項

認識は町と一致している

その時期が、10年後
15年後となると、ここ
にいる人はほとんどこの
場にはいないと思う。こ
れは難しい問題なので、
すぐに解決とはならない
だろうが、将来に持ち越
さない形で、早めに協議
し結論を出していただ
きたい。

町長 使用中という

事は、契約期間中に業
者が仕事を辞めて撤退
する。

これが使用中止という
考え方になるのかと思
うので、途中で使用中止
という言葉には繋がら
ないと思う。

今後、近隣住民に迷惑
が及ばない、そしてまた
不安を与えるような事
が起らないよう注意し
て見ていきたい。

地方創生事業の取組みについて

不退転の決意を持って 地方創生事業を進める

持って地方創生各種事業を進めたい。

一般質問に、職員を傍聴席に入れていた。そういう事も含め、今後も続けていきたい。

地方創生は、まだ始まったばかりである。来年、本格的な調査を始めて、アグリビジネス事業がスタートし、今年度内にもある程度の計画が見えてくるのかと考えてるので、協力をお願いしたい。

辻 平成27年9月5日、東京理科大学長万部校で開催された「長万部地方創生サミット」は、石破茂地方創生大臣をはじめ多くの方から地方創生について学び、理科大との連携、東京都葛飾区との交流事業など、多種多様な事業が提案された。

ダーとして、30年後50年後、子ども達や若者老人全ての人が住んで良かった、住みたいと思える長万部町を目指し、提案された事業に対しどの様な「覚悟」を持って取り組みられるのか伺う。

つてくれるという事ではなく、これからは我々町民がまちづくりの主役でなければならぬ。その事を忘れずに、自ら歩き出せるよう、町民一丸となって地方創生関連事業に全力を傾注する。

辻 町長がリーダーシップを発揮しながら職員に事業を理解してもらい、町民に聞かれた時、「担当じゃないから分からない。関係ない」という事ではなく、全部を知らないまでも、この事業はこうである位の認識を持つ事が必要だと思う。

それが町民に対して、役場職員が一生懸命に取り組んでいるという話になり、理解度も広がりも早くなるのではないかと。一番難しい問題だが、それが出来れば事業もより良い展開に向かっていくのでは。

町長 理科大と本町との連携したまちづくりや、新幹線を核としたまちづくりは、本町の重点戦略であり、地方創生という意味では、その期待度が大きい事業であると考える。「覚悟」を決める事は、今後、地方創生に取り組んでいく上で必要不可欠な姿勢であると認識している。

町民の先頭に立ち、明るい未来のまちづくりに向かい、不退転の決意を

町長 地方創生戦略策定の段階でも、全職員にメールを流して情報を共有しており、ことあるごとに協力を求めている。

また、議会や行政の動きもしっかりと見てもらいたいので、初日と今日の

サミット最終日、理科大前理事長が、事業を最後までやり遂げるためには「覚悟」を決める事が一番必要だとして閉会した。

重要なのは、理科大などが町のために何かをやる

ミーティング中の町職員

町長 地方創生戦略策定の段階でも、全職員にメールを流して情報を共有しており、ことあるごとに協力を求めている。

また、議会や行政の動きもしっかりと見てもらいたいので、初日と今日の



長万部町のトップリーダー

重要なのは、理科大などが町のために何かをやる

ミーティング中の町職員

町長 地方創生戦略策定の段階でも、全職員にメールを流して情報を共有しており、ことあるごとに協力を求めている。

また、議会や行政の動きもしっかりと見てもらいたいので、初日と今日の